

第 1 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 6 号)

1 平成2年3月26日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
5 番 岩村 勝弘	6 番 山崎 雅己
7 番 生稲 陞	8 番 鈴木 勝美
9 番 山口 康雄	10 番 鈴木 忠夫
11 番 神田 守隆	12 番 榎本 春光
13 番 山中金治郎	14 番 小宮 利夫
15 番 横溝 功	16 番 石井 昌治
17 番 石井 謀	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 福原 勤
21 番 辻田 実	22 番 黒川 平治
23 番 流山源次郎	25 番 渡辺 昭夫
27 番 林 豊	

1 欠席議員 2名

26 番 近藤 好雄	28 番 飯田 義男
------------	------------

1 出席説明員

市 長 半澤 良一	助 役 小倉 澄男
収 入 役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総 務 部 長 渡辺 秀夫	民 生 部 長 小幡 清之
経 済 部 長 安西 良一	水 道 課 長 鈴木 信一
教 育 委 員 会 長 正木 高剛	教 育 委 員 会 長 福原 修
選 挙 管 理 委 員 会 長 加藤 利	選 挙 管 理 委 員 会 長 佐藤 澄雄
監 査 委 員 鈴木 重司	監 査 事 務 局 長 熊坂 桂一
農 業 委 員 会 長 斎藤 明	農 業 委 員 会 長 岩城 昭

1 出席事務局職員

事務局 長 川上 義雄

事務局 長 補 佐 兵藤 恭一

書 記 鈴木 哲

書 記 鈴木 修一

書 記 加藤 浩一

1 議事日程（第6号）

平成2年3月26日午前10時開議

- | | | | |
|------|---|---------|--|
| 日程第1 | { | 議案第 9 号 | 非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第10号 | 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第11号 | 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第12号 | 館山市ふるさと創生奨学基金条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第13号 | 財産の無償譲渡について |
| 日程第2 | { | 議案第21号 | 平成元年度館山市一般会計補正予算（第6号） |
| | | 議案第14号 | 館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第15号 | 館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第16号 | 館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第17号 | 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について |
| | | 議案第22号 | 平成元年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第3号） |
| | { | 議案第23号 | 平成元年度館山市老人保健特別会計補正予算（第3号） |

- 日程第3 {
- 議案第18号 館山市竹原及び二子治山事業分担金徴収条例の制定について
 - 議案第19号 館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について
 - 議案第20号 市道路線の認定、廃止及び変更について
 - 議案第24号 平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第2号）
- 日程第4 {
- 請願第23号 年金者現況証明の無料化をもとめる請願書
 - 請願第25号 原爆被害者援護法即時制定の促進決議・意見書採択に関する請願書
 - 請願第26号 館山市立房南中学校校舎新築に関する請願書
- 日程第5 {
- 議案第1号 平成2年度館山市一般会計予算
 - 議案第2号 平成2年度館山市国民健康保険特別会計予算
 - 議案第3号 平成2年度館山市老人保健特別会計予算
 - 議案第4号 平成2年度館山市ユースホステル特別会計予算
 - 議案第5号 平成2年度館山市学童災害共済事業特別会計予算
 - 議案第6号 平成2年度館山市水道事業特別会計予算
 - 議案第7号 平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計予算
- 日程第6 {
- 議案第25号 館山市水田農業確立対策基金条例の制定について
 - 議案第26号 平成元年度館山市一般会計補正予算（第7号）
- 日程第7 議案第27号 館山市助役の選任について

開 議 午前11時00分

◎議長（林 豊君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第6日目の会議を開きます。

議案の配付

◎議長（林 豊君） 議案を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。 — 配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第1、議案第9号乃至議案第13号及び議案第21号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月12日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長榎本春光君。御登壇願います。

（総務委員会委員長榎本春光君登壇）

◎総務委員会委員長（榎本春光君） ただいま議題となりました議案第9号乃至議案第13号及び議案第21号にかかわる総務委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月15日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑、応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第9号乃至議案第11号の非常勤特別職の報酬及び市三役等の給料表の改正等については一括して審査を行いました。審査に当たっては、県下の状況及び類似都市と比較してどうか、詳細に説明を求めました。当市は県下28市中議員報酬は21位、市長20位、人口10万未満の14市中議員報酬は7位、市長の給料は6位であり、人口規模、財政規模から見て均衡のとれた位置にあると考えている旨の説明がありました。

なお、均衡がとれているということであるが、市民1人当たりの予算規模は他市と比較して小さく、市民から見ると抵抗があるのではないか。館山市

の活性化を図れるような前向きな予算を実現しなければバランスがとれない。
財政規模を伸ばす方向で努力していただきたいとの意見がありました。

次に、議案第21号平成元年度館山市一般会計補正予算（第6号）であります
が、国民宿舎事業特別会計出資金1億円について、本会議に引き続き質疑
がありました。貸付金を出資金に振りかえたことについて、当時は貸付金で
健全財政を図れるとのことであったが、2年ぐらいで出資金に振りかえるの
は安易過ぎないかとの質疑に対しまして、当初将来的な見込みを立て、誘客
に努力したが、結果的に低い水準にとどまった。今後もこのような水準で推
移するのではないかと判断され、平成3年度から貸付金の利息を払うことは
財政的に大きな負担となるので、今回特にお問い合わせのものであるとの説明が
ありました。

さらに、関連して国民宿舎の経営等について詳細に質疑がなされました。

以上、本委員会におきます審査の概要について申し上げましたが、採決の
結果、付託を受けました議案第9号乃至議案第13号及び議案第21号について
は、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はありません
か。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。
よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第9号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第10号館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について及び議案第11号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、一括して起立により採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(林 豊君) 起立多数であります。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第12号館山市ふるさと創生奨学基金条例の一部を改正する条例の制定について、議案第13号財産の無償譲渡について及び議案第21号平成元年度館山市一般会計補正予算(第6号)について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(林 豊君) 日程第2、議案第14号乃至議案第17号、議案第22号及び議案第23号の各議案を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長(林 豊君) ただいま議題となりました各議案は、ともに3月12日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長鈴木勝美君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長鈴木勝美君登壇)

◎文教民生委員会委員長(鈴木勝美君) ただいま議題となりました議案第14号乃至議案第17号、議案第22号及び議案第23号にかかわる文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等主なものについて申し上げます。

まず、議案第14号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてであります。今回幼稚園長兼務手当が7,100円に引き上げられておりますが、園長にかかわる責任の度合いから見て妥当な金額であるかとの指摘に対しまして、幼稚園の運営については実質的には教頭が中心になっており、少ない額とは思っていないとの説明がありました。

次に、議案第15号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定についてであります。国の地方交付税算定基準の引き上げに伴ってスライドするという形での値上げであるが、この方式自体市の幼稚園、保育料等に対する基本的な考え方として大きな問題があり、一方的に国の基準で父母の負担をふやしていくことについては認められないとの意見がありました。

次に、議案第17号 館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定についてであります。まず団員の平均年齢について説明を求めましたところ、平成元年4月1日現在で34.2歳、ちなみに県においては31.1歳、国においては34.9歳であるとの説明がありました。

また、団員の職業別はどうか。そして、勤め人がふえたことにより出勤に支障を来すことはないかとの質問に対しまして、平成元年4月1日現在農林水産業11.2%、自営業38.5%、会社員37.9%、公務員12.2%、その他0.2%となっており、昼間の火災で特に団員がいなくて出勤できなかったということとは聞いていない。また、事業所によって団員の出勤に対し、特に理解を示していただいているところもあるとの説明がありました。

次に、議案第22号平成元年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）であります。平成元年度の決算見込みについて説明を求めましたところ、給付の関係が現時点では11月までであり、4カ月ほど残っているが、歳入において32億 3,000万円、歳出において31億 1,300万円程度と見込んでいるとの説明がありました。

次に、議案第23号平成元年度館山市老人保健特別会計補正予算（第3号）であります。医療給付費において1億 3,722万円の減額されているが、どのような理由によるものか説明を求めましたところ、予算積算に当たっては9カ月分は実績で、残りの3カ月分については最高の月のもので推計し、それに過去3年間の平均伸び率を掛けて積算している。結果的に予測したよりも平均の伸び率が下回ったということで、具体的な理由についてはつかみ切れない。なお、医療給付費、支給費を合わせた前年比は62年度2.78%、63年度が8.75%の伸びで、本年度は5.07%の伸びと推計しているとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要について申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第14号、議案第16号、議案第17号、議案第22号及び議案第23号については全員一致をもって、また議案第15号については賛成多数をもっていずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第14号館山市教育兼務職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第15号館山市立幼稚園保育料及び入園料徴収条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第16号館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について、議案第17号館山市消防団条例の一部を改正する条例の制定について、議案第22号平成元年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第3号）及び議案第23号平成元年度館山市老人保健特別会計補正予算（第3号）について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第3、議案第18号乃至議案第20号及び議案第24号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

◎議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、ともに3月12日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長鈴木忠夫君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長鈴木忠夫君登壇）

◎建設経済委員会委員長（鈴木忠夫君） ただいま議題となりました議案第18号乃至議案第20号及び議案第24号にかかわる建設経済委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る3月12日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各議案につきまして、3月16日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑、応答等主なものについて申し上げます。

議案第19号館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定についてであります。まず県下28市中公園施設の中で有料の茶室を設置しているところがあるか伺いましたところ、千葉市、松戸市の2カ所にあるとの説明がありました。

次に、本会議でも質疑がなされたところでありますが、7条の3の使用の制限について、営利を図る目的とはどういうことととらえているか説明を求めましたところ、お茶を教えている先生が授業料を取って定期的に反復、継続して使用する場合乃至茶器等の展示、宣伝、販売行為等を伴う場合を考えているとの説明がありました。

さらに、この規定はどうしても必要なものかとの質疑に対しまして、法的に利用を制限するということではなく、限られた施設であるので、一般の利用者に支障が生じないように制限したもので、今後利用を進めていく中で営利

的なものを含めても一般の利用に支障が生じないということであって、関係者の同意が得られれば場合によってはそういうものも認めていくことについて検討することにやぶさかではないとの考えが示されました。

次に、茶道人口はどの程度と考えているか説明を求めましたところ、流派は5流派あり、茶道連盟に加入している人は480名、高等学校の茶道部関係で140名と把握しているとの説明がありました。

次に、利用者が施設を破損した場合の規定がないが、公共的な施設であるので、その場合の措置等についても検討をすべきではないかとの意見がありました。

次に、茶室以外にどのような利用があるかと考えるかとの質疑に対しまして、華道、長唄、箏曲、尺八、俳句、短歌等、この施設に合うと思われる団体がお茶を除いて9団体あるとの説明がありました。

なお、施設に職員を常駐させることは考えておらず、かぎの管理については博物館分館の職員が行い、管理、清掃については公園係で行っていくとの説明がありました。

次に、議案第20号市道路線の認定、廃止及び変更についてであります、対象となった路線の始点及び終点、現況、認定の理由などについて詳細に説明を求めました。

次に、議案第24号平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第2号）であります。今回、貸付金1億円を出資金に振りかえたとの説明がされておりますが、さらにもっと早い時点で措置ができなかったかとの意見に対しまして、62年度に貸し付けを受け、その後どのような収益で推移していくかを見守ったが、収益の伸びが少なく横ばい状態であった。将来的にもそういうことであると判断したので今回提案したものであるとの説明がありました。

以上、本委員会におきます審査の概要について申し上げましたが、採決の結果、付託を受けました議案第18号乃至議案第20号及び議案第24号については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、建設経済委員会委員長報告を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 私は、議案第19号館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定につきまして意見を申し述べさせていただきたいと思います。

この問題につきましては、過日の一般行政質問の中でもって幾つか質問をしまいいりました。さらに、ただいま建設委員長からの報告の中におきまして、いろいろこの内容につきまして検討され、運用につきましても適切な配慮がなされた点につきましては御了承いたします。そこでもって、この条例そのものに私は大きな欠陥があるのじゃないか、このように思っておるわけでございます。そして、条例はやはりきちんとした条例を制定すべきでございまして、この条例については一部手直しをしなければ運用は非常に困難であろう、こう思ひまして、意見を申し述べるわけでございます。

その前に、私は幾つかの問題についてこのお茶室をつくった背景を申し述べたいと思ひます。1つは、私も昨日茶室を見てまいりました。約1時間半にわたりまして、かなり念入りに見てきたわけでございますけれども、大変立派なものだというふうに思ひます。結構なことだというふうに思ひます。しかし、この茶室建設については私は必ずしも市民の合意がなかったんじゃないかという前提がございまして。1つは茶道連盟の方々との話し合い、こういうものがやっぱり不十分じゃなかったか。あの茶室の中、茶室建設に当たっ

て私は茶道連盟の方々と具体的な話し合いというのは持たれていない、このことについては非常に私残念だということが1つ。

それから、同時にあそこの茶室をつくるに当たりまして、どういう有識者かわかりませんが、そういう人たちの話し合いというのがやはり十分なされた上で、あの茶室というのが建設されたというふうには思われたいわけでございます。そういう点につきまして、どうも市の当局の中で考え、当局の中でもって業者に委託して、そして業者任せの茶室をつくっていったという傾向があるんじゃないか。これに対しましては、先ほども申したように5派ある茶道会のお歴々、さらには約600近くの茶道愛好者、こういう人たちにどういう茶室ができるんだろうかという不信がかなりあります。全部といいませんが、私はかなり多くの人からそういった声を聞いておるということが1つでございます。この点について、私はかなりいいものだからいいだろうということであつたらんではないか。そこにはその茶道会の人たち、市民との間の合意というのは十分なされないままにこの建設ができたんじゃないかということでもって、その点について残念に思っております。

それから、3番目にはやはり今館山市が置かれている状況、例えば富士ディーゼルが倒産して地場産業は非常に苦しい。サカモトデパートは売り上げ不振によって閉鎖して商店街非常に苦しい。そして、商工会議所の多くの役員の方たちが、あれだけの金を使って城山へ茶室つくらんだったら、もう少し商工、観光の面に使ってもらいたい、けしからんではないかという意見、これは直接私は呼び出されまして、どういう考えだということでもってしかられました。そして、私はそういう人たちの考え方、今商工、観光、そういうものについてもう少し力を入れてもらいたいという意見は意見としてわかった。理解しております。その背景、それらの人たちとじゃそういう中でもって、やはり文化都市としてああいう文化施設をつくりたいということをも十分話し合っていない。見切り発車でもってあそこが建てられているということについて、私は非常に遺憾であろうというふうに思うわけでございます。そこでもって、そういう背景の中でもってできた茶室だけに、私は非常に多くの世論を巻き起こすと思います。

私もきのう1時間半ほど城山にいまして、見ている間にかなり有識者の方に会いました。かなりというのを具体的に言いますと六、七人の人に会いまして、ああ立派なの辻田さんでできましたなって。立派はいいけれども館山市も金があんだね。だけれども、我々市民が納めた税金でつくっていることをひとつ忘れないでくださいよ。今館山市はこういうをつくるような状況ですか。もう少し我々の身の周りのことをやってもらいたいですね。かなり批判があるんでしょうねということで、五、六人の人が全部言っていました。かなりの人でもって、文化人らしい人だけでもそう言っていました。それはやはり今の現況だということで、それだけにこのお茶室はこれから館山市政の中でもって、市と市民の間のこの関係として非常に話題になろうというふうに思うわけでございまして、それだけにこの扱いについては慎重を期していきたいということでございます。

前置きが長くなって申しわけありません。具体的に意見を申します。この提案されたところの7条の3ということでございますけれども、この7条の3はこの館山市公民館条例7条と全く同じでございまして。1字1句違いません。具体的には1、公の秩序または善良な風俗を乱すおそれがあるとき。2、施設または設備を破損するおそれがあるとき。3、営利を図る目的で使用するおそれがあるとき。4、管理上支障があるとき。5、前各号に掲げるもののほか市長が適当でないと認めるとき。公民館のは市長のところが教育委員会が定めるものということ以外は全く同じでございまして。同じことをここでもって私は確認をしていただきたいということでございます。

同じことは私は結構なんです。しかし、その公民館は教育機関であって、したがって今までコミュニティセンターにある茶室につきましては、先ほど来言っておりますように茶道の先生たちが会員との初がまとかお茶会とか、そういうふうなものについては禁止されてきているわけでございます。この点について私は何回かやり合っております。しかしながら、公民館というのは教育施設であるから、やはり厳格に考えていくとそういったお茶会の初がまとかそういうのをやるのは困難だろう。これは県の教育委員会にも聞きましたら、それはいいとはちょっと言い切れないよ、弾力的な運営でもって使

わせることはできるかわかんないけれども、規制上はそれはもう無理でしょう、こういうことを聞きまして、公民館法の趣旨から言って私はそれはある程度やむを得ないだろう、このように思っております。これが1つあるわけでございます。

そして、今回城山のものは都市公園条例に基づいて設置されるわけでございます。都市公園条例というのは教育機関じゃございません。館山市の都市公園条例の第4条には、この公園については商行為、出店、展示会、その他そういう商売やることはできる。そして、それらに対しては料金を取るということになっているわけです。私は都市公園法というものを調べました。都市公園というのは宗教、信条、すべてのものを乗り越えて開放しなきゃならない、自由に開放するのが公園だということになっております。したがって、そういうことでもって公園というのは営業もできるし、商業もできる、いろんなそういうのになっております。したがって、今回の茶室は公園法に基づいて公園条例の中の1つに設置されましたですから、私は公園というものは多くの市民、多くの国民に開放するというのが前提であるわけですから、そういう趣旨でもって利用を考えていったらいいんじゃないか。

そこでもって、公民館条例とこの条例が全く同じものが館山でもって今制定されようとするわけでございますから、そうなると同じ条文でもって公園の方は、お茶の先生なんかの初がまだとかお茶会をやってもいい。しかしながら、公民館の方の茶室は使ってはだめなんだという、こういうことがいいのかどうか。これはもう法的に言って条例の性格上、私は矛盾していると思う。この点は通告質問の中で質問したとおりでございます。私は、内容的には建設委員長の報告のとおりいろんな会派の人たちが、お茶を愛する人たちがそういうお茶会とかそういうのをやって結構だと。そして、やっぱり600人近くいる一般高校生、そういうものたちに開放していくんだということ、これはいいわけでございます。しかしながら、その点で開放していくということでもってこの条例でもってできるならば、公民館の方もできなきゃならないわけです。だけど公民館は法律でございます。全部同じでございます。いいといってもかなり無理があります。どっちかを変えなきゃならないわけ

でございます。全く同じものをここに当てはめるということについては私はかなり問題が、法的に無理があるというふうに思うわけでございます。

したがいまして、これを再三言っておりますけど7条の3というものは、営利を目的で使用をするおそれがあるとき、これが一番問題になるわけでございますから、この点については私は削除していいんじゃないか。別に公園の中については営利云々というのはありません。営利をある程度前提にしているわけでございます。資本主義社会の中でもって営利が伴わないものはございせん。したがいまして、私は今回の場合にコミュニティにある公民館の茶室は教育目的に使うべきで、そして城山にある茶室については公園法に基づいて一般市民に自由に開放していくという立場でもって行うべきだ。この点の論議はなしに、同じものをはめたということについては、私ははめてもいいんだけど、具体的に使えないという規制、使えるといっても法律的には市長が変わったり我々議員が変わってしまえばわかりませんから、公民館と同じだから使えない、こういうことに後になる。そういう後にトラブルを起こすような、問題を起こすような条例というのは私はよくない、このように思います。

内容的には私は市長の答弁、建設委員会の委員会の中でもって使えるとっているから結構でございますけど、使えるんだったら使えるような条例にすべきだ。この点を私は指摘いたしまして、この点については原案を改正してやっぱり建設委員会の審議にありましたように多くの人に開放していくんだ、使えるという条例に変えてもらいたい。したがって、原案については反対、そういう点をひとつ十分検討して、そうした方向に沿う条例にひとつ書きかえていただきたい。このことを要望いたしまして討論といたします。

よろしく願います。

◎議長（林 豊君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、他に通告をしない議員で討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第18号館山市竹原及び二子治山事業分担金徴収条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで議案第19号館山市都市公園条例の一部を改正する条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第20号市道路線の認定、廃止及び変更について並びに議案第24号平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計補正予算（第2号）について一括して採決いたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長（林 豊君） 日程第4、請願第23号、請願第25号及び請願第26号の各請願を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（林 豊君） ただいま議題となりました請願は、平成元年12月15日及び3月12日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長鈴木勝美君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長鈴木勝美君登壇）

◎文教民生委員会委員長（鈴木勝美君） ただいま議題となりました請願第23号、請願第25号及び請願第26号にかかわる文教民生委員会における審査の概要を御報告申し上げます。

まず、請願第23号年金者現況証明の無料化を求める請願書についてであります。無料化を行っている市の状況について説明を求めましたところ、県下28市中無料化しているのが5市、年齢制限や公的年金のみと制限をつけて無料化しているのが5市、計10市であるとの説明がありました。

さらに、本市の国民年金、厚生年金等の受給者で現況届けを必要とするものの数について説明を求めましたところ、12月時点で国民年金 7,556人、厚生年金ほか 3,596人であり、生活保護者は申請により減免され、その数は 129人であるとの説明がありました。

次に、現況届けの制度そのものの改善ができないかとの質疑に対しまして、県単位での戸籍協議会、年金協議会において窓口の混雑緩和、経費の節減、合理化、トラブルの防止の面から厚生省に改善を呼びかけているとの説明がありました。

討論において、県内の無料化をしている市を見習うべきである。また、国の制度であるから国としても早く改善していくべきであるということを含めて賛成するとの意見と、受給者の生存、住所の確認は取り扱い機関としては当然と思う。年間の受給額が少ない方でも二十四、五万あるということで、200円を手数料として納めることの困難さは大半はないと受けとめるので反対する。しかし、寝たきり老人や身障者が証明を受けるのは困難であるので

配慮願いたい。さらに、今後制度の改善について要望するとの意見がありました。本請願書については、賛成少数により不採択と決しました。

次に、請願第25号原爆被害者援護法即時制定の促進決議・意見書採択に関する請願については、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

次に、請願第26号館山市立房南中学校校舎新築にかかわる請願書であります。まず、補助金を受けた校舎の処分制限期間については木造で24年であるとの説明がありました。

次に、処分制限期間が過ぎるということで、来年度からの市の基本計画の中に組み入れていくのかとの質問に対しまして、処分制限期間というのは勝手に動かすことのできないという期間であり、24年たったからすぐ次のものをつくるということではない。たまたま次の基本計画の期間に切れるということで、計画に入れるかどうかの基本調査をこれから予定しているところであるとの説明がありました。本請願書につきましては、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

以上、審査の概要を御報告申し上げまして、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。

— 御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

通告がありますので発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） ただいま御報告のありました請願書のうち、請願第23号年金者現況証明の無料化を求める請願書につきまして、私は採択をす

べきとの意見を申し上げ、請願書の採択に賛成するところの意見を申し述べたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

この件につきましては、ただいまの文教委員長の報告の中におきまして、この証明の件につきましてはいろいろと窓口の混雑等を招くし、趣旨からいって改善をすべきだという厚生省等に対しての要望をしていくべきだと、こういう点が述べられておりましたので、この点については私は高く評価をいたしたいというふうに思います。したがって、文教委員会の中におきましても、この現況証明については、市でやることについては非常に窓口の繁雑、そして内容趣旨から言って国等がやっぱり改善すべきだということを明らかにしているわけですから、私はそうすべきだというふうに思うわけですから、現実にはその証明が必要という中におきましては、それが実現するまでの間は館山市の中でもって、この証明の無料化に対するところの財政措置をして、やはりこうした高齢者のものについて配慮すべきだというふうに思います。

ただいまの報告によりますと、大体24万から25万の少額であるけれどもということでございますから、この程度の予算でございましたら私は無料化してもそう財政的に云々ということじゃないんで、これを固守することによって私大変じゃないか。むしろ私は、この金は25万取るために館山市まで来る人たちがバス賃だとか、それからタクシーで来る人もいるようでございます。そういう方の料金の方が何十万で多いわけですから。そうでないともられないという、こういう矛盾があります。私はこれは生活相談をやっているわけですから、私の所属する団体で、その中にもこれを無料にしてもらいたいという要望が相当数出ているんです。これ小さな意見じゃないんです。これはひどい、何とかしてくれという意見が出ておまして、私は何とかしましょう、こういうふうに言っておるものですから、その手前というんですか、そういう面からもこれについては無料にしてもらわないと非常に困るわけですから、そういうふうにしてもらいたい。

現実的にそれじゃ、これはどうかといいますと、先ほどもちょっとありましたように千葉県下の中におきましては、この無料にしているところは15市

町村あるんです。市としては、10市がこれはもう既に踏み切っているわけ
でございます。館山は踏み切らない方でございます。さらには、埼玉県は全市
町村でもってこれはもう無料化を実現しています。東京都も、東京都内の市
町村は全部無料化になっております。区において一部負担というのがありま
す。それで、多くのところについてはかなり減免とか、そういう措置をとっ
て、これは前向きに考えているわけでございますので、これは館山市もやは
りそういう町村に見習って私は無料をすべきだ。無料ができなくても、軽減
すべきだというふうに思います。その点を私は要望したいわけです。

特に、私は市長さんをお願いしたいのは、市長さんは施政方針の場合、冒
頭でもって49年市長就任以来人間尊重を基本にしたところの政策をやってき
ているということを言われておるわけでございます。年寄りをいたわってい
ただきたい。同時に、福祉政策につきましてはこのように申しているんです。
「福祉政策の充実といたしましては、社会的に弱い立場に置かれている人び
とに対する地域の人たちの温かい心の通うサービスが、心豊かな福祉社会の
実現に必要であると考えております」、こういうように述べているわけでご
ざいます。私はやはり心が温まるような、そういうそのサービス、これは市
長は施政方針で言ってるんですから、やっていただきたい。

特に、館山市は福祉都市宣言をしている福祉都市でございます。ここでも
って年寄りをいじめるような、24万、25万の予算の問題じゃないと思います。
また、それでもって済む問題でございますから、これについては私はやっ
てやるべきじゃないか。これができないというようなことになってくれば、
私はもう館山市の福祉都市宣言というようなこの宣言はもう旗を下ろさない
と、もう市民に対して顔向けできないんじゃないかと実際に思うわけでご
ざいます。この点は、率直に請願の趣旨に沿いまして約1万人近くの高齢者の
方がいるわけでございますから、これについてはやはりその趣旨を解して
やって、私は無料の方向に踏み切っていただきたい。そういう意味でもって
請願を採択していただくよう、賛成討論をいたしまして私の御意見にかえさ
せていただきます。

よろしく願いいたします。

◎議長（林 豊君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第23号年金者現況証明の無料化をもとめる請願書について起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は不採択であります。

本請願を委員長の報告どおり不採択と決しますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。

次いで、請願第25号原爆被害者援護法即時制定の促進決議・意見書採択に関する請願書及び請願第26号館山市立房南中学校校舎新築に関する請願書について一括して採決いたします。

各請願についての委員長の報告はいずれも採択であります。

各請願を委員長の報告どおり採 択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、請願第25号及び請願第26号の各請願はいずれも採択と決しました。

日程の追加

◎議長（林 豊君） ただいま採択されました請願書に附帯して、発議案第9号原爆被害者援護法即時制定に関する意見書についてが提出されました。

この際、本議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、本議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

◎議長(林 豊君) 発議案第9号原爆被害者援護法即時制定に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

(議案配付)

◎議長(林 豊君) 議案の配付漏れはありませんか。— 配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(林 豊君) 提出者の説明を求めます。

(8番議員鈴木勝美君登壇)

◎8番(鈴木勝美君) ただいま議題となりました発議案第9号原爆被害者援護法即時制定に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案につきましては、ただいま採択されました請願書の趣旨をそれぞれ関係機関に要望いたしたく、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得まして提案した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

◎議長(林 豊君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(林 豊君) これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託は省略することに決しました。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開をいたします。

午前11時56分 休憩

午後 1時02分 再開

◎議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

議案の上程

◎議長（林 豊君） 日程第5、議案第1号乃至議案第7号平成2年度一

般会計及び各特別会計予算を一括して議題といたします。

予算審査特別委員会委員長報告

◎議長（林 豊君） ただいま議題となりました各会計予算は、ともに3月14日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本予算に対する予算審査特別委員会における審査の経過並び結果につき委員長の報告を求めます。

予算審査特別委員会委員長福原 勤君。御登壇願います。

（予算審査特別委員会委員長福原 勤君登壇）

◎予算審査特別委員会委員長（福原 勤君） ただいま議題となりました議案第1号乃至議案第7号平成2年度館山市一般会計予算並びに特別会計予算にかかわる予算審査特別委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る14日の本会議におきまして設置されました本委員会を19日招集し、各会計における予算につき慎重に審査いたしました。

以下委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、その概要を御報告申し上げます。

まず、一般会計歳出であります。

第2款総務費中、千葉県JR複線化等促進期成同盟負担金が計上されていますが、内房線の複線化については総合計画の中でもその促進がうたわれているところであり、実際どのように活動されてきているのか説明を求めましたところ、県内四つの複線化期成同盟が統合、一本化されたもので、内房線の地域は東京、千葉方面への通勤、通学圏として、また首都圏のリゾート地域としての機能を果たし、さらにリゾートの具体的なプロジェクトも進んでいる中で、地域の発展に伴って輸送需要も拡大すると考えられるとして、君津館山間の複線化を陳情しているが、JRでは客が伸びていないことから複線化は考えておらず、単線での利便性の配慮を考えているとの回答があり、複線化は現在では難しいが、鉄道が需要を興すという側面も大変あるので、現実の利用客数と関係なしに運動を続けていくとの考えが示されました。

次に、交通安全対策費について、交通安全対策特別交付金の減額は市の計画の減少によるものか説明を求めましたところ、交通違反の反則金を財源とするもので、市町村への配分方法としては人口密度、前年度、前々年度の事故発生件数などで算定され、63年度事故件数の減少に伴う減額であるとの説明がありました。

なお、市内の状況を見ると、交通安全対策について抜本的な計画をもって推進していくことが必要な時期に来ているのではないかと意見がありました。

次に、民生費中、老人ホーム入所措置扶助費が計上されておりますが、老人ホームの措置費及び個人負担について説明を求めましたところ、1人当たりの措置費については、施設によって異なるが、おおむね特別養護老人ホームで250万、養護老人ホームで160万円程度、また個人負担については本人あるいは扶養義務者の所得によって異なるが、歳入において1,859万円の負担金を計上しているとの説明がありました。

次に、衛生費中、環境衛生費において、水質検査委託料が計上されておりますが、この内容について特に海水浴場との関連において説明を求めましたところ、汐入川、巴川及び現在進めている合併浄化槽の水質検査をするもので、特に海水浴場開設期間には北条海岸4地点、相浜2地点について毎日ふん便性大腸菌、塩素イオン、COD等測定していくもので、さらに河川減菌装置の効果についても測定していくとの説明がありましたが、海水浴場として問題の起こらないよう万全の措置を講じていただきたいとの要望がありました。

次に、農林水産業費中、農業振興費において農村青年グループ育成事業補助金、農業企画研究会育成事業補助金、転作作物展示圃設置事業補助金等が計上されており、これらの事業内容について詳細に説明を求めるとともに、さらに総合的なしっかりした組織をつくって、新しい特産品の創出に全力を上げて取り組んでいただきたいとの要望がありました。

次に、商工費であります。施政方針において企業誘致を促進するため、館山インダストリアルパークの整備がうたわれ、本会議でもその内容につい

て質問されておりますが、さらにその規模、公害等の問題はないか、説明を求めましたところ、従来の工業団地とは異なった自然の中に工場が点在するというような構想で、現在具体的な内容まで至っていないが、産業振興基礎調査に基づき、館野、九重地区の30乃至40ヘクタール程度に新素材の研究開発など、先端技術産業の誘致を考えており、原則として環境に大きな障害のないような新しい産業の誘致をしたいとの説明がありました。

次に、リゾート開発関係の予算に関連して、リゾートマンションの規制問題について質疑が行われました。特に、自然景観との兼ね合いではっきりとした高さ制限は必要ではないかとの指摘に対しまして、周囲の景観等に調和すれば高さは問題ないと考える。法の制限をクリアしていればやむを得ないわけで、問題は芸術性である。自然と調和のとれた建築をしてもらうようにこちらから要請する以外に方法はなく、そういう方向で努力していくとの考えが示されました。

次に、土木費中、公有財産購入費が計上されていますが、今後都市再開発パイパス等に関連して、用地購入がさらに増大する中で、土地開発公社の設立について検討はされたかとの質問に対しまして、土地開発公社はメリットとしては税制面での優遇措置があること、都市計画区域内の土地の先買いができること、法的資金の活用が図られること、借り入れに際して、地方公共団体の債務補償を受けられることなどが上げられるが、しかしデメリットとして公有地拡大の推進に関する法律により、規定されている業務の範囲内ではしか事業が行えないことから、観光用地の購入、取得あるいは造成、さらに施設の管理等の業務ができないことになっている。市の買収計画等についても調査したが計画が少なく、開発公社の方が幅広く事業は行えるということもあり、今後の事業の推移を見ながら対応してまいりたいとの考えが示されました。

なお、本市は将来有望な地域とされているが、館山へ呼び寄せる施設をつくることが必要であり、そのためにも事業の計画の段階で、積極的に土地の先行取得をして事業の推進を図るべきであるとの意見がありました。

次に、教育費であります。関連して市内の中学生の進学先を見ると、木

更津方面の学校が多くなってきているが、安房郡市の高校の普通科が特に男子の場合について少ないという声を聞くので、基本的には県の考えによるものであるが、今後父母の意見等を踏まえて対処されるよう要望いたしました。

次に、来年度教育センターの研修室を増築し、教職員の研修体制を充実していくとのことでありますが、教職員の研修は非常に重大なことであり、研修はどのように行われていくのか説明を求めましたところ、指導要領が改定になり、平成2年度から幼稚園、3年度からは小学校、4年度から中学校において進められるので、それにどう対応していくかということが2年度以降の大きな研修になる。そのほか中学校において平成4年度からパソコン教育を実施するための研修、そのほか国際理解教育、長欠対策等の各種委員会の研修を行っていくとの説明がありましたが、さらに新しい時代に対応した心豊かな児童を育てるための情操教育、道德教育についても充実されるよう要望いたしました。

次に、公債費であります。公債比率について県下28市の中でどのような状況にあるか説明を求めましたところ、公債比率は現在17.1、地方債制限比率は15.2で、いずれも県下28市中1位であり、また財政調整基金の積立額については63年度決算で県下28市中26位、財政力指数については63年度と0.757で21位であるとの説明がありました。

次に、普通財産購入費に関して、富士ディーゼルの跡地問題について質疑がありました。公有地の拡大の推進に関する法律によれば、都市計画区域の一定規模の土地を第三者に譲渡する場合には届け出が義務づけられており、その際市が申し出をすれば市の方がさきに協議する先議権があるのではないかとの指摘があり、さらに遊休地についても市町村が遊休土地として適用を申し出れば利用計画を出させて、その計画が適当でない場合には譲渡について市と協議するということもあるので、遊休土地についても十分調査をされるとともに、今後公共事業を行っていく中で土地買収の問題がネックになることも考えられるので、法の趣旨を最大限に活用していくことが必要であり、十分検討されるよう要望いたしました。

次に、歳入であります。まず市民税の課税状況について詳細に説明を求

めました。平成元年度の市民税の職業別課税状況について、給与取得者に対する課税額15億 4,390万円、課税総額に占める割合76.9%、以下年金生活者 4,750万円、2.37%、一般営業者1億 4,770万円、7.36%、農業所得者 5,024万円、2.5%、漁業所得者 333万円、0.17%であるとの説明がありました。

なお、産業重視の予算を組むことが税制の伸びにはね返るので、積極的に投資できるよう前向きな予算を組むべきであるとの意見がありました。

次に、税収の伸びについてどのようにとらえて積算したのか説明を求めましたところ、国の平成2年度の経済見通しによれば名目で5.2%、実質で4%とされており、依然として安定成長が続くということから、個人市民税については収入の伸びを4%と見込み、法人市民税については本年度の最終調定見込額の5%の伸びということを基本に積算したとの説明がありました。

次に、国民健康保険特別会計であります、歳入中、その他繰越金については決算見込みによる剰余金を繰り越すものであるとの説明がありました。

次に、歳出において保健施設費における各事業についてはヘルスパイオニアタウン事業として国から補助されるもので、市の財政負担にはならないとの説明がされておりますが、さらに詳細に説明を求めましたところ、本事業は厚生省の補助によるもので、県内80市町村のうち2市町村が指定を受け、被保険者の割合から700万円が限度額となっている。国保会計の施設費に計上することが義務づけられているが、被保険者だけではなく市民全体の健康保持、増進に使うことになっており、計画したものについては全額補助されるものと考えている。なお、現在計画書を提出している段階で、国の認定を受けた時点で補助金を計上していくとの説明がありました。

以上が質疑応答の概要であります。

次に討論を行い、まず消費税絡みの予算であること、幼稚園、保育料を国の地方交付税算定基準にスライドさせて引き上げることは認められないこと、保育園の保育料についても現実に高いという認識の中での引き上げは認められないこと、都市計画税の課税のあり方には問題があることから、一般会計については反対、水道事業及び国民宿舎事業特別会計予算については消費税絡みの予算であり、消費税を認めるわけにはいかない立場から反対するとの

意見がありました。

さらに、予算規模が小さいことや、国庫補助等が減額されていることには問題があるが、今後市民の要求に応え、状況に応じて前向き、効率的な予算の執行をされることを要望し、賛成する。また、国民健康保険特別会計については、現状の保険税を維持していくことに全力を上げるよう要望するとの賛成意見がありました。

採決の結果、議案第1号一般会計予算、議案第6号水道事業特別会計予算及び議案第7号国民宿舎特別会計予算については賛成多数をもって、議案第2号乃至議案第5号の各特別会計予算については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本委員会における審査の概要につきまして御報告申し上げましたが、市当局におかれましては今後の予算執行、行政運営に当たりましては、本特別委員会における要望、指摘事項等十分に配慮されるよう要望いたしまして、予算審査特別委員会委員長報告を終わります。

◎議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

◎11番（神田守隆君） 議案の第1号平成2年度館山市一般会計予算、議案の第6号水道事業特別会計予算、議案の第7号国民宿舎事業特別会計予算にそれぞれ反対の討論をいたします。

いずれも消費税を前提とした予算案であり、同意できません。消費税は所

得の低い人ほど負担の重くなる税制であり、まさに弱い者いじめの不公平税制であります。一刻も早く廃止すべきものです。昨年、半澤市政は自民党政府の意を受けて、くみ取り料金や水道料金、国民宿舎料金に消費税を上乗せ、値上げし、消費税を転嫁いたしました。市自らが市民いじめの弱い者いじめに加わることは許せません。まず、これらの消費税転嫁の廃止を主張します。この消費税について、さきの総選挙で自民党が過半数を得た以上、消費税は信任されたのだとする意見があります。しかし、自民党自身は消費税の見直しを公約いたしましたが、その自民党の候補者の中にさえ消費税廃止を主張した者もいました。自民党の公約した見直しも中身のはっきりしないものであり、国民の信任を得たとは言えるものではありません。

さて、自民党の見直し案の中身では食糧品は非課税にするとしています。このため、政府の税制大綱でも上水道はことしの10月から非課税品となっております。また、例年予算編成の指針となる財政課長の内簡でも、水道料金の取り扱いについては10月より非課税となることに留意しろとしております。市の予算策定の前提となる平成2年度の地方財政計画でもこのことは盛り込まれております。売上税がかつて問題となったとき、県内28市の中で売上譲与税を計上したのは館山市だけでありましたが、このとき市は国の地方財政計画などに沿って計上したのだと言いわけし、国の指導に沿って予算を編成するという姿勢を強調していました。国の指導に沿って予算を編成するのなら、水道はこの10月から消費税の転嫁を廃止すべきであります。ところが、消費税の予算計上は1年間分が計上されております。少なくとも政府自民党の見直し案でさえ非課税としているものから、引き続き消費税を取り立てるなどという予算には賛成できません。

新年度予算では幼稚園保育料、入園料を地方交付税の算定基準の引き上げに沿っての値上げを見込んでおります。こうした値上げのやり方は県内でも極めて例外的な事柄であり、館山市が幼稚園保育料についてどのような水準を適性と考えるかの独自の見識を持たないでいることを示しております。新たな市民の負担をふやすものであり、こうした値上げのやり方は認められません。保育園保育料も平均 2.3%程度の値上げが見込まれております。既に

6万円を超える保育料が出ております。高過ぎる保育料をさらに値上げすることは認められません。

都市の景観や自然の美しさなどの景観美を保全する上で、リゾートマンションの高さの問題は重大な問題であります。千葉県議会でもこのことが取り上げられ、沼田知事はリゾート地におけるリゾートマンションの建設ラッシュは問題があるとの認識を示し、具体的にその規制に乗り出す考えを表明いたしました。こうした中で、館山市は既に町並み景観指導要綱を制定していますが、高層建築の高さについては自然景観との調和に配慮するとしています。ところが、市長は自ら定めたこの町並み景観指導要綱があるにもかかわらず、建築物は芸術だ、それが芸術性にすぐれているかどうかが問題で、高さは問題ではないとの発言をいたしました。市長がいうように芸術性の優劣によって建築物の規制やあるいは指導をしようというのなら、その具体的な評価の仕方や指導、規制のあり方などの指針を示す責任があります。それができるまでリゾートマンションの建築計画はすべて凍結すべきであります。芸術性についての発言が真剣なものだとすれば、それは当然のことです。それができないとするのなら、一刻も早く自然環境保護ゾーンを設定し、具体的に高さの規制を実施すべきであります。この点で半澤市長のその政治姿勢は重大な問題があり、容認できません。

都市計画税は、館山市は市街化区域と調整区域の未線引き地域として、本来市街化区域にのみ課税されるはずの都市計画税が一部を除いて全域に課税されております。これは本来課税されるはずのない地域の土地や家屋に都市計画税が課税されていることを示しています。目的税である都市計画税の受益の範囲を無限定に拡大することは許されません。未線引き地域の都市計画税のあり方として、線引きや税率など根本的に見直すべきであります。現在の都市計画税の課税のあり方は認められません。

なお、防火用貯水池設置の地元寄附金は廃止するとの発言を受け、新年度予算では防火用貯水池の地元寄附金を計上しませんでした。これで、市道やあるいは消防の地元寄附金が廃止されたものと考えます。それ自体は地方財政法に禁止されているものであり、当然の措置として支持いたします。

また、し尿処理手数料について環境保全公社にトン当たり 4,000円を 3,500円に減免措置をとるとの答弁がありました。このことは予算では措置されていませんが、保全公社の損益を年間約 1,000万円程度改善することになります。結果的に市民負担の軽減につながるものとしてこの措置がとられることを支持します。

以上の点を主張し、議案第1号、議案第6号、議案第7号の反対討論いたします。

◎議長（林 豊君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

次、21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

◎21番（辻田 実君） 私は、議案第1号平成2年度館山市一般会計予算に対しまして、8点にわたりまして御意見を申し述べたいと思います。

まず、第1点は土木費でございます。本年度の、平成2年度の予算を見ますと23億 8,786万円、そして構成比といたしましては20.7%計上されているわけでございます。予算の構成割合からいきますと高く評価できまするけれども、その内容におきまして2点ほど私は御意見を申し上げたいと思うわけでございます。

過日行われましたところの市民意識調査の結果につきましては、もう既に御案内のとおり住みにくい理由として、まず第1に道路、下水道が悪い、こういうことで37%という突出したところの数字が出ているわけでございます。このことは、これまでの館山市におきますところの道路、下水道政策が不十分であるということを裏づけているというふうに言わざるを得ません。そうした中におきまして、本年度の土木費も昨年とほぼ同じ程度でございます。道路費等につきましては1億円は伸びておりまするけれども、これとてこうしたところの市民の要望、こういうものに答えられる予算じゃないというふうに思います。または応えようとしている予算というふうには見受けられないわけございまして、こうした点については十分配慮をしていただきたいというふうに思うわけでございます。

2番目には、今館山市の商業活動は大変非常に厳しい状況にございます。

先ほど来も申しておりますように、サカモトデパートの売り上げ不振による
ところの閉鎖というふうな問題に象徴されるように、銀座商店街を初め、各
商店街は非常に厳しいと言われておるわけでございます。そうした中におき
まして、館山駅周辺の市街地整備の推進は緊急課題な問題だろうというふう
に思うわけでございます。施政方針演説の中におきましては、この駅前周辺
の整備につきましては全力を尽くしてまいる、こういうことが述べられてお
るんですけども、予算面見てまいりますと昨年とほとんど変わらない。そ
して、前進があり得るといような期待は持たれないし、またこの予算の中
ではどう見てもやはりこの周辺整備が推進できるような予算になっておらな
い。こういう点については私は十分配慮しなきゃならないんじゃないか、こ
の点を指摘したいわけでございます。

次に、総務費の中におきまして、3点御意見を申し述べたいわけでござい
ます。この総務費の中におきまして、民族音楽フェスティバルの継続開催が
出されているわけでございます。少ない予算でございますけれども、これ
は昨年の市制50周年記念ということを銘打って開催されたわけでございます。
この評価をめぐりましてはいろいろの見方があるわけでございます。しかし
ながら、私はここでもって指摘しておきたいのは、昨年のこの開催におきま
しては、市制50周年のメインイベントという表題を掲げながら、その企画、
さらには運営、財政、こういう面についてかなり無理があったんじゃないか
というふうに思われるわけでございます。

特に、この財政の面におきましてはスポンサーの取り下げ、さらには入場
券の売りさばき — 特にこの入場券の売りさばき等につきましては館山市内
の各種団体、企業等からかなり強い不平、不満が出ておりまして、その中
においてはこういうような形の押しつけなり、押しつけに準ずるようなことは
やめてもらいたい。50周年記念だからお付き合いしますけれども、納得のい
かない、こういうようなものが出されておるわけでございます。これにつ
きましては、私は捨てがたい状況であろうというふうに思うわけでござい
まして、これらにつきましては30日に推進会議の中でもってどのように反省され
るかはわかりませんが、そうした面が工夫されないままに、昨年以下

の予算でもって、そしてまたこれを継続していくということについては、かなり私は問題が起きてくるんじゃないかというふうに思うわけでございます。そうした点につきましては、十分な論議、まず十分な合意というのが得られないわけでございまして、この点については十分配慮いたしまして、昨年出されているような問題点、こういうようなものが再び起こらないように私は要望をいたす次第でございます。

それから、4番目にはふるさと創生基金でございます。ふるさと創生資金というのは竹下内閣の大目玉でございまして、これは全国それぞれの町村でもって使っているわけでございます。ある面では、悪い言い方かも知れませんが、この1億円を市町村がどのように使うかはその市町村の力量、またはその市町村の市政運営のコンクールのようなものじゃないか、こういうようなことも言われているわけでございまして、全く1億円という土俵の中でもって、その市町村がこれをどのように活用するかということは、これはもう全国から注目されておるし、それぞれの町村の中でもって競争しておるという状況であろうというふうに思います。

そういういわくつきのふるさと創生資金、館山市の場合には育英資金とそれから地域リーダー育成事業の2つに大きく分かれて使われているわけでございます。そして、育成リーダーの中におきますところの事業の中でもって、特にこの公衆トイレを取り上げて、そしてこれを研究課題にしていくと、こういうことでありますけれども、これらについて非常にそのあいまいな点が多く、そしてこれらに対するところの予算措置というものはこうしたふるさと創生、そして地域リーダーの育成というものについて結びつくのかどうか。そして、予算措置は私は適切じゃないというふうに思われるわけでございまして、そうしたいわれつきのふるさと創生資金だけに、十分この施行運用に当たっていかなきゃならない、そういう面について私は意見を申し述べておきたいと思うわけでございます。

次に、5番目に次期5カ年計画の策定でございます。5年間で今年度で終わって、来年度から5カ年計画に入るわけでございます。これは15年計画のうちの第2期、最も大切な5カ年計画になろうというふうに思います。特に、

館山市の場合にはリゾート開発というものがあるわけでございまして、この5カ年計画いかんによっては館山市のこれからの方向が決定されるわけでございます。

そこでもって私は意見を申し述べておきたいんですけれども、私は前回のこの基本構想の作成の審議委員に出ておったわけでございますけれども、私は幾つか意見を申し述べました。しかしながら、あの審議会の構成は各種団体、各層からそれぞれ選ばれておりまして、かなり各分野を網羅した審議会です。顔ぶれは非常に立派なんですけれども、その審議の内容について私は非常に疑問を感じているわけです。とにかく質問するということが、してはならないような雰囲気の中、そしてその質問をいたしましても、それについて何かこう否定するような形の答弁、そういうものしか出てこない。そしてその発言者が、やはりこの都市計画についてこういうものをやってもらいたい、そういうものについてはほとんど入れられる余地がない。事務局から出されているところの計画案、それに対するところの意見を聞くということ、基本的なことを質問してもそれを退けるというような形の中でもって、むしろくみ上げよう、そしてそのものを意見を出してそれを反映させるということとはほとんどなかったんじゃないかというふうに思われます。原案について修正というのはありませんでした。修正的な意見というのは私はかなり述べていたんですけれども、こういうことでいいのか。私は当時市議員やっていませんでしたものですから、いずれこれらは市議会の中でもって審議されて決定されますから、こういうことであつたわけです。

私は、この議決を審議するときにつきましてはもう議員をやっていましたから、議会の中では総合計画審議会において十分論議して結論を得てきたものでございましてということでもって、私自身を含めて十分な質疑、論議なしに、そういう審議を経ているんだからということでもってこれを承認していく、承認されたという経過があるわけでございます。私はそういう中でもって、本当に市民なり、そしてその議員なりが本当にこの長期計画の中にそれぞれの立場からの意見というものがどれだけ反映されたかということについて、非常に疑問なわけでございます。

こうしたところの審議会、またはこうしたところの長期計画のできるということにつきましては、本当に館山としては不幸せなことになるんじゃないか。もう少しやはりこの市民と議会と市の執行部が一体になって、お互いの英知を出し合って、市民合成のやはり長期計画というのは必要であろうというふうに思うわけでございます。そういう点については、今回の予算措置等もとおり一遍の審議委員の数回の出席の日当程度のものでありまして、十分調査研究、そういうようなものは組まれていないわけでございまして、この点については十分そうしたところの市民のための、そして市民の英知を集めた、そして市民の合意を得たところの長期計画につくっていかなければ、これは本当の市政発展につながらないんじゃないか。そういう点についてこの予算というものにつきましては不十分でありまして、そういう点を十分反映させていただきたいというふうに思います。

次に、教育費の中でもって3点御指摘をいたしたいと思います。1つは地区公民館の書記の専任でございますけど、これは非常に結構なことであるわけでございます。私はこの兼務職員の報酬の引き上げ等がございまして、それらの論議の中でもって何かあいまいな点も見受けられるようでございますので、この点につきましてはやはり館山の画期的な事業でありまして、館にそれぞれ臨時職員を配置するという、そしてまた館山市にしてはかなり高額の予算も組んだわけでございますから、適任者の選任を急いでいただきたい。そして、早い機会にこれを運用させるということをしていただくことを要望をいたしたいと思います。

それから、7番目に神余小学校の統廃合の問題でございます。この問題につきましては、先般の議会におきましても小宮議員の方からの御質問が出されておるわけでございまして、教育委員会としての方向というのは打ち出されておりまして、これにつきましては統合という方向でもって教育委員会は進んでおる。そして、その前には私の質問に対しましては、教育委員会としてはいろいろ諸事情等があったので、今年度中には何とか目安をつけたい、こういう形の討論がなされておったわけでございますけども、今年度の、平成2年度の予算案を見ますと、そうしたところの統廃合に対するとところの

絡むところの予算が全く見受けられません。これについては、もう質疑の中でもって方向性だけ示されて、その実態が伴っていないというふうに思われるんじゃないかというふうに思います。

したがいまして、この点についてはやはり議会でもって再三そういう点は繰り返されているわけですので、こうした点については来年度の予算の中でもってある程度のやはりその予算的な措置、具体的な施策というものが出されていいんじゃないか。また来年も延び、またその次の年になるということについては教育の問題だけに私はおろそかにできない。この点については小宮議員も再三指摘しておりましたように、やはりきちんとした結論が出たら早急に、速やかにやはり実現して地域の住民に応えなきゃならないということが出されて、そういう方向でいくといていながら、1年たち、2年たちということについては非常に遺憾であって、予算的な措置がないということについては私は十分考えていただきたい。

そして、最後に8番目の問題ですけど、県民体育大会の問題。通告質問の中におきまして、この点については質問をいたしました。それによりますると県民体育大会は県の主催であって、そしてこれらにつきましては館山市の体協、さらにはそれぞれの専門部会が実施していくということでもって、特にそれに対するところの予算は設けられていないところが明らかになったわけですので、私はこれであってはならないというふうに思います。

質疑の中で言いましたように、教育長自身が昨年の3月の議会の中でもって、県民体育大会の会場を各地に持っていくということは、各地域にそれぞれのスポーツを盛んにするというのが大きな目的であるということをおっしゃっているわけですので、そうした面に立てば、やはりそういう意味で開催される県民大会でございますから、これは当然市が率先してやらなきゃならないんじゃないか、こういうふうに思うわけですので、そうした予算が盛られていないということについては非常に残念であるわけですので、これは何とかしなきゃならない。特に、わかしてお国体に準ずるような、やはり実行委員会の設置、さらにはことしのスポーツ振興の中でもって

生涯スポーツ、地域スポーツの振興を重点に予算を編成しましたということでございますから、そうした中でもってこのスポーツの振興対策費、こういうようなものについて十分検討をしてもらいたい。

特に、私は今回の開催の中で4種目されるわけでございますけども、その中でもって剣道につきましては、特に私は重点を入れていただきたい。これは聞くとところによりますと、私も剣道連盟の顧問という立場にありますので、いろいろ意見を聞いているわけでございますけれども、今回のこの館山市の県民大会の剣道場を館山で受けるということは、わかしてお国体でもって館山市が剣道、柔道を引き受けた中でもって、今回は柔道がないわけでございますから、その剣道がその後20年にわたりましてどのような成果をおさめてきたのか、そのことをやはり県民の前に明らかにすることがあるし、また同時に館山市としてもそのわかしてお国体の成果が今もこのように脈々と生きているというものを示したい、こういう意向があるわけでございます。

そうした面におきまして、やはり財政的にも市の協力、そういうものを全面的にいただきたいという要望が出されているわけございまして、そういう面に対して意見につき、要望というものは全く予算の面に反映されていないということについては非常に残念でありまして、この点についてはやはり補正予算、その他でもって私は当然組んでいただかなきゃならないというふうに思っておりますけれども、先般の質疑の中ではそういうような意向もないわけございまして、そういう中でもって今回のこの県民体育大会を館山でもって、このままの予算の中でもって開催するということにつきましては、非常に不本意でありますし、館山市民といたしましても納得できないところでございまして、これは補正を組むなり予算を組み替えて、やはり館山市が健康で――長寿健康都市宣言等をしているわけでございますし、施政方針の中におきましてもスポーツを通じ、そして健康で明るいまちをつくるということを言っておるんですから、それにやはり伴うところの予算というものを、やっぱり裏づけというものをしてもらわなきゃ困るわけでもって、これは全く見えないということについては非常に残念でありまして、以上の

8点については本年度の予算の中でもって私の意見を申し述べて、この面については十分配慮をしていただきたいというふうに思います。

そして、私はそうした中でもって、先ほど予算委員長の福原さんの方から審議の内容が報告されまして、私はそのとおりだというふうに思います。そして、その中でもってやはりいろいろとこの要望が出されておったわけでございますけど、要望だけでは私は済まないわけでございまして、予算規模の小さいということ、それについて十分検討してもらいたいということ、そういうことにつきましては私はそれでもいいかと思ひます。

しかし、私の立場から申しますれば、やはりこの点について私はこれだけ予算規模が小型な場合には、これを賛成というわけにはいかない。特に、前回も申し上げましたように、市長は非常に大型な積極的な予算組んでおるといっておりますけれども、ことしの予算の伸びは県下が10%以上平均の中でもって5.6%という現実的な伸び、そして市民1人当たりの当初予算が21万円、県は平均は30万を超えておる、こういう厳然たる事実。そして、千葉県の多くの市の中におきまして、前年度決算対比でもって当初予算がマイナスになっておる市町村というのはありますけれども、その半数以下。特に、ことしの予算は50周年等もあったという関係もあると思ひますけれど、8億8,605万円のマイナスになっているわけでございます。今この状況の中でもって去年よりも8億8,000万円も予算が減になったということについて、はい結構ですと、もろ手を上げて賛成を私はできかねます。市民もそういうことでもって、やはり同調し、妥協しているということについては、私は全部が全部納得がいけないというふうに思ひまして、そういう意味によって、この予算の規模の低さ、これについてはやはり単に要望ということにとどまらず、反対という立場を意思表示をする中において、市長に反省を促し、この点の改善を求めていただきたいというふうに考えているわけでございます。

消費税の問題については前任の神田議員が言われたとおり、国民的な合意、市民的な合意、そして今自民党、社会党、公明党、共産党等が取り組んでいところの国会の状況等を見れば、これは今の消費税はだめなんだ、これは変えなきゃならない、こういう中でもって宙に浮いた中において、館山とし

ては市民の考え方、市民の感情というものを考えるならば、やはりこうした消費税予算が組まれたところの予算を計上するというについては賛成しかねる、そういう意味におきまして、私もこの2点につきましてはどうしても妥協というんですか、そういうことはできませんので、この予算案に対しまして私は反対をするものでございますので、どうかそういう点を十分御参酌いただきまして、予算の執行運営に当たっていただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（林 豊君） 以上で辻田 実君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。

18番。

（18番議員日下君敏君登壇）

◎18番（日下君敏君） 私は議案第1号平成2年度館山市一般会計予算乃至議案第7号平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計予算につきまして賛成討論をいたすものでございます。

平成2年度一般会計予算の115億3,500万円が、対前年度比5.8%のものが、このただいま辻田議員の反対討論がございましたが、この額が適切かどうかということは一概に論じ得ないところでございまして、私自体もあるいはいまだ少し大型な予算を組んでもよろしいのではないかなというような考えもございしますが、半澤市長さんが何せ16年間にわたってやってまいりました財政は健全財政を旨といたしておるということの建前から見ますれば、この一般会計予算115億3,500万円はほぼ妥当な線であろうと思うわけでございます。半澤市長の施政方針を見ますと、少ない財源の中で重要施策について効率的な配慮をいたした、かように述べておるわけでございますが、私も4点にわたりまして概略を御説明を申し上げ、賛成をいたすものでございます。

まず、第1点がこの重要施策が適切に配置されている予算であると存ずるところであります。駅前周辺整備事業その他がございしますが、特に西口の問題につきましては、4億6,693万5,000円上がっておるわけでございまして、

せんだってば長年の禍根でございました訴訟も終わりましたものですから、ここで積極的に西口開発に取り組んで、あすの館山市をつくるというような意味においてはほぼ妥当なものであろうかと存ずるところでございます。

第2点は、道路網等の公共事業費が適切に計上されていると存ずるところでございます。先ほども御議論がございましたが、土木費23億 8,700万円。先ほど来申し上げますように、少ない財源の中でこのような数字を上げ、対前年度7%も増加しておるということは、この都市基盤整備のおくれております館山市にとりましては、やはりそれ相応に評価してよろしいものであろうかと存ずるところでございます。127号バイパス問題、さらには都市計画道路八幡高井線、主要地方道館山白浜バイパス線、こういったもろもろの相当な道路網の整備が予定されておるわけでございますが、なお一層にこの公共事業費につきましては御判断いただいてやっていただきたい、そういうことでございます。

第3点が、国民健康保険税でございますが、この国民健康保険税が一応据え置かれた格好になっておる。3年にわたり据え置かれた格好になっておるというところが一応の評価をいたすところでございます。この国保税につきましては、私も既に館山市というか他の町村もそうでございますけれども、支払い側にとりましてはもう相当な究極な局面を迎えている。ですから、私はできれば下げてほしいというようなところでございますが、とりあえずは国保税が平成2年度も一応据え置かれた格好、世帯別で14万 9,174円、ほぼ前年度どおりで来ておるというところで評価いたすものでございます。

そして、総合的第4点目に申し上げます、教育、農政、その他一応バランスをもって構成されておるものではないか。半澤さん最後の予算でございますが、さように評価いたすところでございます。

そして、この予算執行に当たりましては、私は2点ほど御要望申し上げます。賛成討論を締めくくろうと思いますが、第1点はこのリゾート問題でございます。リゾート問題が今年度は実施計画が出されるなど、いよいよ実施の段階に立ち至っておるわけでございますので、リゾート計画に対する行政指導は適切に行っていただきたい、かように思うところでございます。

第2点が先ほどの国保税でございます。国保税につきましては6月に本算定が行われますので、先ほど予算委員会を通じましては現状でいくよう最大の努力をいたせということの御要望があったようでございますが、私はでき得れば国保税は1%でも2%でも下げるような御努力をぜひともお願い申し上げまして、私の賛成討論にいたします。

◎議長（林 豊君） 以上で18番日下議員の討論を終わります。

他に討論はございませんか。— 討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第1号平成2年度館山市一般会計予算について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第2号平成2年度館山市国民健康保険特別会計予算、議案第3号平成2年度館山市老人保健特別会計予算、議案第4号平成2年度館山市ユース hostel 特別会計予算及び議案第5号平成2年度館山市学童災害共済事業特別会計予算について一括して採決をいたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第6号平成2年度館山市水道事業特別会計予算及び議案第7

号平成2年度館山市国民宿舎事業特別会計予算について一括して起立により採決をいたします。

各議案についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

◎議長(林 豊君) 起立多数であります。よって、各議案はいずれも原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(林 豊君) 日程第6、議案第25号館山市水田農業確立対策基金条例の制定について及び議案第26号平成元年度館山市一般会計補正予算(第7号)の各議案を一括して議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(林 豊君) 議案の説明を願います。

半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 本日、急遽提案いたします2議案につきまして提案理由を御説明申し上げます。

まず、議案第25号館山市水田農業確立対策基金条例の制定についてでございますが、国が市町村に交付する特別交付金により地域の創意工夫に基づいた主体的な取り組みにより、水田農業の持つ多面的な役割を発揮させることを促進し、平成2年度から実施する水田農業確立後期対策の円滑な推進に資するため、基金条例を制定しようとするものでございます。

次に、議案第26号平成元年度館山市一般会計補正予算(第7号)でございますが、歳入歳出予算の補正といたしまして、歳入歳出それぞれ1,489万2

、000円を追加し、総額 124億 3,594万 6,000円としようとするものでございます。

歳出の主な内容といたしまして、館山市水田農業確立対策基金積立金で 1,473万 2,000円、これは国からの水田農業確立特別交付金により、平成2年度から始まる水田農業確立後期対策に資するため基金を設置し、積み立てようとするものでございます。

よろしく御審議のほどお願い申し上げます。

◎議長（林 豊君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

◎議長（林 豊君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、各議案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

討論はありませんか。 — 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

議案第25号及び議案第26号の各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

議案の上程

◎議長(林 豊君) 日程第7、議案第27号館山市助役の選任についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

◎議長(林 豊君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

◎議長(林 豊君) 議案の説明を願います。

半澤市長。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長(半澤良一君) 議案第27号館山助役の選任について提案理由を御説明申し上げます。

本市助役の小倉澄男君がこの3月31日をもって任期満了となりますので、その後任として現在の小幡清之民生部長を適任と考え、選任いたしたく市議会の同意を得ようとするものでございます。

よろしくお願い申し上げます。

◎議長(林 豊君) 説明は終わりました。

質疑応答

◎議長(林 豊君) これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結

いたします。

委員会付託の省略

◎議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

◎議長（林 豊君） これより討論を行います。

討論はありませんか。—— 討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

助役選任について同意を求める件はこれに同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

◎議長（林 豊君） 起立多数であります。よって、助役選任について同意を求める件はこれに同意することに決しました。

閉 会 午後2時05分

◎議長（林 豊君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第1回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第1号乃至議案第7号、議案第9号乃至議案第27号
- 1 請願第23号、請願第25号及び請願第26号
- 1 日程の追加・発議案第9号

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

館山市議会議長

館山市議会議員

館山市議会議員